

テーマ	利益測定と資産評価の基礎概念（Ⅱ）							
学籍番号							氏 名	

1. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・ 発生主義会計は、（ ① ）・（ ② ）および（ ③ ）という 3 つの基本原則に支えられている。そのうち、（ ③ ）における収益と費用の対応関係を認識する仕方には、2 つの方式がある。特定の財貨を媒介として収益と費用の対応関係を直接的に認識する方式を（ ④ ）といい、会計期間を媒介とした対応関係で認識する方式を（ ⑤ ）という。
- ・ 収益認識に関して「財務会計の概念フレームワーク」では、実現原則や実現可能性原則を包括し、これらに代わる考え方として、「（ ⑥ ）」という概念を提示している。

①	実現原則（または発生原則）	②	発生原則（または実現原則）	③	対応原則
④	個別的対応	⑤	期間的対応	⑥	投資のリスクからの解放

2. 実現原則における「実現」の 2 要件を示しなさい。

財貨やサービスが相手に引渡されたこと
対価として、現金・売掛金などの貨幣性資産が受け取られたこと

3. 次の資産評価基準の説明に該当する原価名（価格名）を語群より選び、記号で答えなさい。なお、語群はすべて使用すること。

- ① 資産の現在の売価から、販売費等の付随費用を控除して算定
- ② 保有中の資産と同じものを現在の購買市場で取得して取り替えるのに要する支出額
- ③ 将来キャッシュ・フローを利子率で割引計算した評価額
- ④ 購買市場で資産が取得された過去の時点での支出額

【語群】 ア. 現在払出価格 イ. 取得原価 ウ. 現在受入価格 エ. 取替原価
 オ. 歴史的原価 カ. 純実現可能価額 キ. 将来キャッシュ・フローの割引現在価値

①	ア、カ	②	ウ、エ	③	キ
④	イ、オ				

4. 取得原価基準における長所と短所を述べなさい。

取得原価基準は、資産が販売されるまで収益は計上されないため、実現原則と首尾一貫した会計処理となる。また、証憑等に基づき客観的に測定することができる。しかし、保有中の価格変化が資産の売却時点まで認識されないため、貸借対照表に計上された資産額が時価から著しくかい離してしまうおそれがある。さらに、算出される利益には、操業利益だけでなく、保有損益も混在することになる。